

ミニバラ生産“日本一の信頼” セントラルローズ



大西 隆 代表

セントラルローズは鉢物大産地の岐阜県本巣市にあります。日本で初めてミニバラの生産を始めました。日本のミニバラのパイオニアとして、国内のミニバラシェアの約30パーセントを

占め、生産量・品質共にNo.1を自負しております。現在およそ6,000坪の栽培施設にて、年間約200万鉢のミニバラを生産しています。

ポットローズの生産を始めて約25年が経ち、この間にさまざまな問題をクリアしながら、日本一の生産を誇れるまでになりました。この間幾度となくオランダ、デンマークなどへの生産現場や農業施設会社の視察を繰り返し、あの理想とされる生産システムを導入したく、日本流に変えながらも形として構築してきました。

この間にオランダのMPSのことを知り、いつかはこのMPSが日本にも導入されると思い、環境に配慮した生産に心がけてきました。ムービングプールベンチ利用の養液循環型の生産システムや、



ミニバラミックス

温室内の環境を良くするための設備を設置しました。また最近では暖房用エネルギーを油から電気に変更し、CO2排出を抑制するシステムを導入しました。養液循環型のシステムは養液の外部への垂れ流しもないため、用水路などの汚れを防ぎ、また肥料や地下水なども必要最小限の量を有効に利用しています。

温室の環境を整える

温室には循環扇を配置し、絶えず室内の空気を循環させ温度、湿度を平均化させることにより暖房費の抑制にもつながります。また室内の環境がよければ植物も順調に生育し、病害虫の発生も抑制され、農薬の散布量も抑えられることにつながっていきます。温室内で作業する従業員も気持ちよく作業に携わることができます。



国内クレジット制度活用でCO2半減

数年前より暖房用の油の価格変動が非常に大きいので、安定したエネルギーを確保するために、数年計画でエネルギー使用を電気を主に油を従に変更してきました。ヒートポンプを設置することにより油の使用量は半減し、CO2の排出量にも大きくブレーキをかけました。半減させたCO2は、国内クレジット制度を利用し、CO2削減分（排出権）を中部電力(株)に販売しました。

ナトリウム灯導入

また、ナトリウム灯を2年計画で各温室に約1,500基設置しました。バラは暖房するだけでは生育も花芽分化もあまり進みませんので、この光があることで特に冬場の日照不足を補うことができます。このオレンジ色の光は発熱効果もあり暖房にも一役かっています。併用している油暖房の削減にもつながっています。夜間の照明により植物の光合成が増加し、挿し木から出荷までの期間が短くなり、年間の生産回転数を増加させることが可能です。同じ面積の温室で、ナトリウム灯を設置することで生産量、出荷量が増加し、売上高向上につながります。



年間のエネルギーコストは油でも電気でも同じくらいのコストはかかると思われませんが、品質が非常によくなることと、出荷量が多くなることで利益につながると予想しています。

(まだ設置して1年が経過していませんので)

目標とする生産システムとMPS

何年も前から目標としてきたオランダの生産システムとMPSを活用することにより、その成果が出始めたようです。

弊社ではまだまだ改善することも多くありますので、無駄のないように改善に努め、環境に配慮した安定生産、安定経営を目指して努力していきます。